

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 慈愛の保育の推進

① 外部環境

保育には不易と流行がある。保育材料は、より子どもの興味関心を喚起するものへより子どもの行動に沿ったものへ進歩している。また、保育技術はこども研究の進歩から対応の仕方は変わってきている面もある。また、昨今の子どもを取り巻く環境から不適切な保育の問題や児童虐待の問題などの報道が絶えないところである。

こういう現状にあって、慈愛の保育の心は不易です。このことは、時代が変わっても守り続けなければならない点であると考えている。

② 重点課題に対する取り組み

ア 「医療の原点は慈愛である」「福祉の原点は慈愛である」「保育の原点は慈愛である」ことを園経営の中核に据えて取り組んだ。

イ 日々の研鑽を積み重ね、慈愛の保育を実践した。

ウ 園内研修の充実を図り、一人ひとりの保育の資質や専門性を高めた。

(ア) 講師招聘による研修

a 社会人としての資質向上の研修の実施
人権教育、コミュニケーション能力の向上

b 実践的保育力の向上に資する研修の実施

保育を実際にやって見せる講師、アプローチカリキュラムの実践者、絵画指導者等

(イ) リモートによる研修

300講座を要するデザイン研究所のOn-line研修システムによる個人研修の推進（勤務時間内研修）

エ 慈愛の保育の実践をまとめ冊子にした。

(2) コロナ禍における保育内容・地域との連携の進め方を研究する

① 外部環境

2年続く新型コロナウイルス感染症の防止を踏まえた生活様式になり、保育環境も大きく変化してきた。また、第2次中長期計画の「慈愛の心で人と地域をつなぐ」という経営理念に沿う直接体験活動等が実施できていない状況も続いている。従って、コロナの感染状況を見ながら、園外保育の実施時期を変更したりするなど工夫をした。

また、子どもたちの健やかな成長には社会との関わりは重要であり、今後、地域の中のきずな保育園としての新しい在り方を更に工夫し、生み出していきたいと思う。

② 重点課題に対する取り組み

ア コロナウイルス感染防止対策の徹底を図った。

イ 中止せざるをえない園外保育等の代替保育等の検討をした。

(ア)・ユーチューブ、リモート、ICT等の活用をした。

(イ) 保育のねらいによる代替保育の実施をした。

ウ 行事等の地域の施設との交流

(ア)・記録したDVDの送付、手紙やプレゼント、作品送付、動画の活用を図った。

エ 年間計画の柔軟な対応をした。

3) 発達障害等のある児童に対する支援体制を作る

① 外部環境

発達障害といわれる様々な特性を持ち、集団生活の中で困り感を持つ子どもたちが増えている。本園でも、令和元年

度から令和4年度まで療育機関を利用している園児は平均15%程度、その他気になる子どもは平均6%程度おり発達相談を受けていた。入園前に保健センターの健診等で発達の偏りがわかり、サポートしているケースや、入園時の面談や集団生活の中で気付き、相談を勧めていくケース等などがあつた。いずれにしても、子どもの特性を理解し、その子に合った関わりや環境を整えていくことが求められ、それには高い専門性持つ機関との連携してきた。

② 重点課題に対する取り組み

ア 臨床心理士の訪問指導、療育機関との連携を深め、子どもの発達や特性を理解し、適切な関わりや手立て、生活環境の調整を通して、個々の発達や成長を支援していった。

イ 臨床心理士等における発達障害の相談やカウンセリングのスキルに関する個別研修を実施した。

ウ 保護者の抱える悩みや不安に向き合い、支援していく臨床心理士や職員の相談等を通して子どもの姿を共通理解しながら支援を行った。

2. きずな保育園の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数 (年平均人数) 定員60名

年齢 性別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	1.2人	8人	5人	9人	4.9人	5人	33.1人
女児	1.3人	8人	8.7人	5人	9.7人	8.7人	41.4人
計	2.5人	16人	13.7人	14人	14.6人	13.7人	74.5人
	(4.1)人	(9.9)人	(10.4)人	(14.5)人	(13)人	(17)人	(68.9)人
割合	3.3%	21.5%	18.4%	18.8%	19.6%	18.4%	100%

()は前年度実績

※5年連続して20%超えない範囲で、保育士数や保育室の認可された面積の条件内で、児童を受け入れることができる。

(0歳児の月別在籍数)

月 性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	0人	0人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	2人	2人	2人	2人	14人
女児	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	2人	2人	2人	2人	16人
計	1人	1人	2人	2人	2人	2人	2人	2人	4人	4人	4人	4人	30人
	(1)人	(1)人	(2)人	(5)人	(5)人	(5)人	(5)人	(5)人	(5)人	(5)人	(5)人	(5)人	(49)人

()は前年度実績
(年間延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
R3年度	49人	119人	125人	174人	156人	204人	827人
R4年度	30人	192人	164人	168人	175人	164人	893人
前年比	-19人	+73人	+39人	-6人	+19人	-40人	+66人
	61.2%	161.3%	131.2%	96.5%	112.2%	84.4%	108%

・コロナの影響で両親の転勤が延期になり、入園の辞退と転園があつた。他は変化なし。

(2) 保育事業

	保育計画	実践	反省・課題
0歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携をとりながら、保育士との個別的なふれあいに配慮し、依存的要求を満たし情緒の安定を図る ・一人一人の子どもの生活リズムを大事にしながら生理的欲求を満たし、安全で清潔な環境の中、健康に過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活リズムと発達に合わせた生活ができるように努めた。 ・子どもの発達や個性に合わせた空間づくりを工夫して、のびのびと遊べるように、安全な環境づくりをした。 ・保護者との連絡や相談を密にして、健康面や子育ての悩みに寄り添うようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低月齢児の保育について、家庭と十分に連携を取り無理のないように努めた。 ・子どもの成長に合わせて室内の環境を変化させることで、個々に合った遊びや生活ができ、落ち着いて過ごせた。 ・保護者との信頼関係作りを丁寧に行い、子育てに寄り添うことができた。
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い、体を動かすことを楽しむ。 ・周知の物事を知ろうとする芽生えを養い、ことばの習得を助ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢や経験を考慮したグループ分けや、保育士の配置、室内の環境の見直しをした。 ・興味や関心を引き出すような言葉かけ、環境づくりを心掛けた。(玩具の選び方、補充等) ・戸外遊び、散歩で自然に触れ、栽培や簡単なクッキング等の体験をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループ分けや0歳児と合同にすることにより、ゆとりや異年齢の関わりで保育ができ、一人ひとりに目を向け、互いの刺激となり成長した。 ・発達に合った玩具や必要数を揃え、十分に遊びこむ姿が見られた。 ・体験を多く取り入れることで、子どもがいきいきと活動していた。 ・月齢差や個人差に配慮し、臨機応変に対応するために、職員同士のコミュニケーションがより必要となった。
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で！」の気持ちを大切に、様々なことに挑戦し、友達と関わったり、体を動かしたりする楽しさを味わう。 ・色々な経験を通して言語活動や表現力を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身につけられるように、適切な援助を行い子ども達が意欲的に生活できるようにした。 ・子どもの興味を引き出し、意欲的に活動できるような環境づくり、保育計画を行った。 ・療育との連携、保護者面談を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に配慮して、無理のない目標を設定し、楽しみながら生活習慣が身についていた。 ・様々な体験活動を取り入れ、子どもたちの好奇心や探究心を育てた。 ・保護者の気持ちに寄り添った、日頃からの連携を大切にしていた。
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの要求を大切にしながら基本的な生活習慣の自立を図り、集団生活への適応を推進し、生活経験の拡大を図る。 ・言葉の獲得を通し友達との関わりを深め、ごっこ遊びや、外遊びを十分にし、体を動かす楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性や姿を大切にする保育を行った。支援が必要な子どもについて園全体でサポートした。 ・運動遊びやごっこ遊びを通して、友だちとのかかわりを多く持てるようにした。 ・遊びの中で、必要な体の機能の発達や社会のルール等を学べる工夫をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達が気になる子どもについて、職員間で情報を共有し、家庭や療育機関とも連携して、対応した。 ・保護者面談を行い、子育ての不安感に寄り添い、信頼関係を築いた。 ・子どもたちの主体性を大切にしたい保育を心掛け、興味を引き出していた。
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な自発活動の場を与え、成就の喜びを持たせ良いこと、悪いことを判断して行動する。 ・友達関係を深める中、相手の主張を聞くことで思いやりを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の気持ちを引き出し、表現できるように一人ひとりと丁寧に関わった。 ・療育施設との連携、担任同士の連携を大切にし、共通理解が図れるようにした。 ・異年齢のかかわりを通して、年少児へ思いやりの気持ちを持ち、年長児を真似して学ぶ体験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や発達に沿った活動ができるように、様々な体験ができるよう楽しめる保育計画をした。 ・発表会や運動会等の行事で個々の良さが発揮されるよう、子どもたちの意見を大切にしていた。 ・子どもたちが自分の気持ちが言えるように、安心できる雰囲気を作り、丁寧に関わっていた。

<p>5歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び自覚すると共に、就学への期待を持つ。 ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合い、仲間に認められる事によって自己発揮する ・友達と共通の目的に向かって、さまざまな行事や活動に意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を引き出し、自分たちで考え工夫して遊べるようにした。話し合い活動を取り入れ、子どもたちの意見を取り上げるようにした。 ・クッキングや栽培、収穫など体験活動を多く取り入れた。 ・運動遊びを積極的に行い、戸外でのびのびと遊ぶ時間を意識的に増やした。 ・自主的な遊びを中心に、盛り上がり遊び込めるように、担任は環境を整えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や掲示等で自然と関心が向くような環境づくりをした。子どもの言葉を拾い上げ、保育に反映できるようにすることで、遊びが展開していった。 ・行事に向けて、導入をしっかりと興味を引き出したり、子どもたちと話し合いながら進めたりすることで、主体的に参加することができていた。 ・一人ひとりの発達をよく理解し、個性と見なし、就学までの目標を明確に持ち、就学相談等を行い、無理のないようにした。
------------	---	---	---

(3) 給食事業

主な計画	実践	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・献立の立案 ・子どもの栄養状態の把握 ・給食検討会 ・食事調査の実施 ・食育の年間計画の立案 ・アレルギー除去食の提供 ・園内の畑やプランターで野菜の栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理や行事食、旬の食材を組み入れ、食の伝統文化や四季の味を知らせる。 ・食事の摂取状況や活動状況、身長や体重などの発育状況の把握を行った。 ・毎月1回保育士と意見を出し合い、給食に反映させた。子どもたちの意見も取り入れた。 ・家庭での食生活の調査をし、家庭と園との連携を図ることにより、その後の献立、栄養指導につなげた。 ・食事のマナーを知らせると共に、楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食べる喜びを味わう。 ・保護者との連携をとり、アレルギー除去食の提供を行い、調理の際には事故のないよう十分配慮し、保育者と連携を十分にとり対応した。 ・園内に畑を整備し、野菜の栽培を、生長観察、収穫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産物を活かした料理や旬の食材を知り、郷土料理や季節感を味わうことができた。 ・現場の率直な意見を聞き、献立作成に生かした。給食担当職員と園児の交流を行い、子どもの実態を知り、親しみを持つことができた。 ・個々の発育曲線グラフを作成し、発育の状況を把握し、保護者にも伝え喜ばれた。 ・アレルギーの対応は保護者や医療機関との綿密な連携が必要である。また、誤配食を防止するため、トレーの色や表示、職員同士の確認を徹底した。 ・大きい組の園児は、保育士と献立を確認しながら、献立ボードでの三つの栄養素の確認をし、栄養に興味をもつことができた。 ・身近な野菜を栽培し、収穫することで食材や調理にも興味を持ち、感謝して食べることにもつながった。

(4) 地域交流事業

事業名	実践	反省・課題
・世代間交流事業	<p>[以下、感染防止のため中止]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護付き有料老人ホーム慈愛の郷訪問(月一回) ・慈愛の郷の夏祭り・敬老会・クリスマス会・もちつき参加 ・運動会の「祖父母競技」に参加 ・「架け橋」訪問(2回) ・「高麗町敬老会」に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止のため、高齢者施設をはじめ、町内会などの行事や交流は中止になった。慈愛の郷は中庭越しに、手を振り合ったりする姿もあった。発表会の動画をクリスマス会に提供したら、大変喜んでいただき、慈愛の郷の職員がサンタ姿で、子どもたちにプレゼントを届けてくれた。これからは、交流の方法を工夫し、双方が楽しめるように話し合っていきたい。 ・また、架け橋へも発表会の動画を提供し、喜んでいただいた。
・異年齢児交流事業	<p>[以下、感染防止のため中止]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒園児と年長児交流 ・運動会の競技に、未就園児、小学生が参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接の交流は中止となった。感染を心配して、例年よりも訪ねてくる卒園生も少なかったように思う。卒園生との交流についても、再考していきたい。
・保育実習 ・職場体験学習 ・ボランティア ・福祉・保育体験学習 ・職業講話	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島中央看護専門学校 ・鹿児島医療技術専門学校 ・鹿児島女子短期大学 ・久木田学園看護専門学校 ・鹿児島純心短期大学 <p>[中止]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲南中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の指導を通して、職員の指導能力や専門職としての自覚が向上すると思われた。 ・多くの人とかかわることで、子どもたちも成長する機会があった。 ・実習の方法は、時間短縮や食事を一緒に食べない等、学校により配慮があった。

(5) 幼児保育相談事業 臨床心理士 大坪恵美子先生 (年4回)

内容	反省・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の行動観察と気になる子どもへの具体的な対応について ・保育内容や方法についての指導 ・担任保育士とのカンファレンス ・保護者との面談の進め方について ・就学時相談について ・療育等への連携について 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気になる行動について、事前に連絡して、相談することでより詳しく助言してもらうことができた。また、日頃の姿を心理士と一緒に観察することで、考えられる原因や、違う面から見た理解もできた。 ・保育や保護者との相談の中での困り感を相談することで、保育者自身の悩みも軽減することができた。 ・専門機関への連携や、具体的な進め方もアドバイスしてもらい療育等に通所することができた。 ・対象児が多く、限られた時間内で相談することが難しかったが、相談を重ねるごとに、保育士の知識や専門性は高まったと思われる。

<p>・保護者面談</p>	<p>・子育てに不安や悩みを強く持つ保護者に対して、直接アドバイスしてもらう機会を設け、安心してもらう事ができた。また、職員が面談する際に事前に相談し、適切な助言をもらう事ができた。職員が保護者と面談するうえで、自信を付け、スキルが上がったと思う。</p>
---------------	--

(6) 実習受け入れ

学校名	実習期間	日数	人数	目的
甲南中学校（3年生）	中止			職場体験学習
甲南中学校（3年生）	中止			家庭科保育実習
鹿児島中央看護専門学校	6月20日～10月14日	各4日間 合計36日間	27名	小児看護学実習
鹿児島医療技術専門学校	10月24日～10月27日	4日間	5名	小児看護学実習
鹿児島医療技術専門学校	11月7日～11月10日	4日間	5名	小児看護学実習
久木田学園看護専門学校	1月23日～1月26日	4日間	4名	小児看護学実習
久木田学園看護専門学校	1月30日～2月2日	4日間	4名	小児看護学実習
鹿児島純心女子短期大学	2月6日～2月18日	11日	1名	保育実習
鹿児島女子短期大学	10月11日～10月22日	11日	2名	保育実習
鹿児島女子短期大学	2月15日～2月28日	11日	1名	保育実習
鹿児島女子短期大学	6月6日～6月17日	10日	1名	給食実習

3. 相談・苦情

計 画 (対応策)	内 容	対応・反省
<p>・苦情解決責任者、苦情受付担当者、および第三者委員を設置し、苦情解決の体制を整えた。又、苦情申し出窓口の設置について、年度初めに保護者に周知する。</p> <p>・苦情の申し出でなくとも、園の運営に関する要望や苦情を受け付け、改善すべきことは改善し、キッズンリー等を通して公表し、園運営に生かしていくよう努める。</p> <p>・日頃の保護者とのコミュニケーションを大切に、相互理解を深める。</p>	<p>・隣家の方が、家の前に保護者の車が止まっていた困るとの苦情があった。</p>	<p>・キッズンリーで、具体的に駐車しない場所を地図で示した。また、朝夕駐車場に立ち、守られていない車には注意をした。その結果、その後苦情はない。</p>

4. 防災訓練

日時	種別	参加人員	内容
4月30日（金） 18:50	火災（延長保育）	園児9名 職員6名	避難、消火訓練
5月11日（火） 9:50	火災（慈愛の郷との合同訓練）	園児56名 職員19名	避難、消火訓練
6月18日（金） 18:15	地震（延長保育）	園児5名 職員5名	通報、避難、消火訓練、防災ずきん
7月20日（火） 10:05	火災（消防立ち合い訓練）	園児 67名 職員 20名	避難、消火訓練、DVD鑑賞

8月27日(火) 10:05	台風・水害	園児65名 職員17名	避難、消火訓練
9月29日(水) 18:10	火災 (園長保育)	園児5名 職員5名	避難、消火訓練
10月28日(木) 11:03	地震・津波	園児66名 職員15名	避難、消火訓練、防災ずきん
11月5日(火) 11:00	火災 (慈愛の郷合同訓練)	園児65名 職員14名	避難、消火訓練
12月15日(水) 18:33	地震・津波	園児4名 職員5名	避難、消火訓練、防災ずきん
1月13日((木)) 10:10	地震	園児63名 職員16名	避難、消火訓練、防災ずきん
2月17日(木) 10:10	火災 消防立ち合い	園児63名 職員16名	避難 消火訓練
3月8日(火) 15:20	地震	園児64名 職員17名	避難 消火訓練、防災ずきん

5.会議及び研修

月	主な計画	実践	反省・課題
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度のクラス運営について ・保育実技研修 (年4回) ・新型コロナウイルス感染対策 (毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの現状と課題を話し合い、職員の連携について話し合う。 ・日本幼年教育研究会講師 高附恵子先生による保育実技研修を受ける。 ・園での感染対策を再度見直す。 ・新しいコロナウイルスに関する情報の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達やクラスの状況について全員が共通理解することができ、職員の連携につながった。 ・実際に子ども達の前で保育をしていただくことで、子ども達への言葉かけや関わり方、楽しい導入やわくわくするような保育活動を学ぶことができた。また、教えていただいた活動を保育の中でも実践することができた。 ・現在行っている感染対策を見直し、消毒や保育室の使い方、活動内容、行事の在り方について確認した。また、3歳児以上児のマスク着用確認。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・人権についての研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷山善き牧舎幼稚園副園長 (元人権同和教育課長) 田中民也氏による講話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権 (子ども・高齢者・障害者) や男女差別、同和問題について学び、人との関わり方や子どもの人権 (いじめ・虐待・体罰・差別用語) を大切にされた保育を学ぶことができた。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の大切さ 「花に水 人に言葉」 	<ul style="list-style-type: none"> ・MBCタレント二見いすずさんによる講話 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の大切さや美しさについて改めて考えることができ、話し方や言葉の使い方、子ども達への言葉かけについて再度見直すことができた。絵本の読み聞かせは絶品であった。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画指導の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・東光会鹿児島支部長 武田信雄先生による絵画指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの絵画への興味関心の持たせ方、多様な指導方法は今後の絵画指導法の参考になった。結果として、子どもは絵が好きになり意欲的に取り組むようになった。

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の具体策 	<p>感染管理認定看護師（今村病院吉森さん）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている感染対策を説明し、現場を見てもらい、指導を受けた。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の持ち方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における運動会運営について、職員で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会は2学年の入れ替え方式で行い、甲南中学校体育館で保護者、家族のみの参加で行う。過去2年間園内での実施だった0歳児～4歳児の保護者はとても喜んでくれた。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の持ち方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における運動会運営について、職員で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会は、慈愛の郷のホールが使えないため、大きい組の保育室を会場にする。 各学年、入れ替え方式で行い、そのたびに消毒、喚起を徹底する。各クラスの発表時間を決め、長時間にならないように配慮した。 各家族2名のみのお参観をお願いした。保護者の皆様も快くご協力いただいた。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児保育相談年4回 ・不適切な保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士大坪先生による園児理解、園児対応について研修及び指導を受ける。 ・不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き 保育所等における「人権擁護のためのセルフチェックリスト」～「子どもを尊重する保育」のために～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の子どもの発達や特性を理解し、適切な関わりや手立て、生活環境の調整を通して、個々の発達や成長を支援の参考となった。 ・不適切な保育が生じる背景の整理と対応について学んだ。また、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を全員にさせ、人権に対する意識の啓発を図った。このことを通して、自らの保育実践を再確認するとともに職場の環境や職員同士のかかわりを見直し、職場の環境や人間関係の再構築につながった。 ・慈愛の保育について考えることができた。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・アプローチカリキュラムの実際（3日間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・十島村教育委員会 森節代先生によるアプローチカリキュラムの実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が小学校生活に向けてスムーズに移行出来るようにするために、アプローチカリキュラムをもとに、実際に指導して頂いた。今後の職員の指導の在り方の参考になった。また、園児は自信を持って小学校入学を迎えることができた。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の保育方針等の共通理解 きずな保育園の経営方針の共通理解 きずな保育園のグランドデザインの共通理解 ・新入園児、新クラス体制の連絡と共通理解 ・新人事考課についての説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度へ必要な情報交換をし、職員間の連携が取れるようにした。準備を丁寧に行うことで、新年度への移行がスムーズに行えた。 ・全職員に人事考課制度についての説明をおこなった。回数を重ねることで理解が深まっていくものと思う。

6.年間行事報告

主な行事	実践 (活動)	反省・課題
・誕生会	・感染防止を考え、全クラスが集合せず、保護者の方の参加もなく、子どもたちと保育士で行う。	・毎月の楽しみであり、コロナ禍でも楽しい行事になるように、各回で工夫した。年齢を分けることで、無理なく参加し楽しむ姿も見られ、新しい発見だった。
・避難訓練	・様々な災害や時間帯、場面を想定し、訓練を行った。	・自分の身の安全を守るという意識の向上に繋がっている。
・おはなしの会	・県立図書館「さざなみ」2名～4名の方による、月2回絵本の読み聞かせ・わらべうた・手遊び・素話 (市内の感染状況を見て、休みの回もあった)	・子どもたちの聴く力、イメージ力、言語力の素地を養い、感性豊かな心を育てることにつながっている。保育士の力量アップにもつながった。
・体操教室	・太陽スポーツクラブの講師による、年齢に応じた体育あそび。(週1回) 市内の感染状況により、回数を調整した。	・体を動かして遊ぶ楽しさや集団での遊びの楽しさを味わうことができた。体力や運動能力の基礎を培う活動を普段の保育にも取り入れていく意識をもつよう努めた。
・英語教室	・以上児を対象に、ネイティブの講師に依頼。(月1回)	・英語の楽しさを十分味わう事ができた。

月	主な行事	実践	反省・課題
4月	・入園式	・楽しい雰囲気の中で式を進め、年長児が動画で新入園児に歌のプレゼントをしたりした。	・感染防止の観点から、保育室で行い、各家庭で保護者1名に参加していただく。少人数ではあったが、温かい雰囲気での式となった。理事長に参加をいただいた。
5月	・保護者懇談会 ・春の遠足 ・内科検診	・中止。資料のみ配布 ・中止。 ・嘱託医(高麗町クリニック)による健康診断。	・内容についての質問を、直接主任と園長に受け付けることで、スムーズに説明できた。保護者との信頼関係を築いていけるように、丁寧な対応を心掛けた。 ・全員異常なしであった。欠席児がいたので、事前に出欠をしっかりと確認すること。
6月	・歯科健診	・嘱託医(松村歯科) 検診してもらい、その結果を保護者に通達。	・歯について興味を持つように、事前の指導をした。欠席児の再診を確実にを行う。

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・プール開き、水遊び ・七夕まつり 灯籠づくり (六月灯中止) ・夏まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はプールを使用せず、年齢別に、水遊びを行う。 ・園内行事、地域の交流の一環として行う。 ・例年は親子で参加するが、密を避けるため子どものみで、今年クラスごとに行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温水温、時間等に配慮し、熱中症予防に努めた。7月のみ行う。泥遊びや船等の製作や色水遊び等工夫した。 ・保護者に協力してもらい短冊を作り、親子で楽しんでもらえるようにした。興正寺の夏祭りは中止となったが、新しい交流の形ができた。 ・年齢に合った時間帯や遊びが工夫出来て、楽しめていた。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児交流会 ・わくわく保育 ・交通安全教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・中止 ・お泊り保育を、「わくわく保育」として、夕方から20時くらいまでの時間帯で、花火やスイカ割、おばけ屋敷など行う。 ・安心安全教育指導員による交通指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園後の子どもたちに、手紙でお知らせをした。楽しみにしている子どもが多かったので、残念だった。 ・日常では味わえない雰囲気味わい、子どもたちに一体感が生まれていた。子どもたちが計画を立てることで、積極的に参加していた。 ・きりん、ぱんだ、こあら組が参加する
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・十五夜 ・敬老の日の集い 	<ul style="list-style-type: none"> ・十五夜の由来を知り、すもう、綱引きを楽しんだ。 ・慈愛の郷への参加はなし 	<ul style="list-style-type: none"> ・十五夜飾りや、お団子づくり、給食メニュー等を通して行事を楽しむことができた。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・高麗町敬老会 ・ハロウィンパーティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・甲南中学校の体育館で実施。 ・中止 ・手作りの仮装をして、園内交流及び年長は町内を練り歩いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防を考え、2学年ごとで実施した。参加者は家族のみの参加とした。 ・全園児実施できたので、保護者からは大変喜ばれた。 ・衣装等、自分たちで工夫して遊びを作り出していくようにした。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の遠足 ・内科検診 (2回目) ・職場訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミカン狩りに南九州市の農園に出かけた。 ・嘱託医 (高麗町クリニック) による健康診断。 ・職場訪問 (食品納入業者・高麗町クリニック・慈愛の郷) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お天気に恵まれ、以上児クラスが参加した。バスで行ったが、自然体験が十分にでき、喜んでいた。社会生活のマナーを身に付けることができた。 ・全員異常なしであった。 ・近隣は出かけお礼を言いに行った。身近な仕事に興味を持ち、感謝の気持ちを持つことができた。一部業者は園に来た時に手作りのお礼を渡した。

12月	<ul style="list-style-type: none"> 生活発表会 クリスマス会 餅つき会（中止） 	<ul style="list-style-type: none"> 大きい組保育室にて、各クラス入れ替え制で実施する。事前の健康チェック、入れ替え時の消毒作業等行う。 大きい組、小さい組保育室に分かれて実施した。（感染予防） 慈愛の郷との行事は中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の遊びの中から発展した内容になるように取り組んだ。子どもの発想を生かし、いきいきとした発表ができていた。慣れた場所であったため、普段通りの様子が発表できたように思った。感染対策には、各職員が責任を持って、取り組んだ。 サンタ役を園長がした。子どもたちは大喜びで楽しく、参加していた。 クリスマス会に、発表会の動画を提供したら慈愛の郷の方々に、喜んでいただけた。 餅つきはできなかったため、子どもたちには、お土産に小さな飾り持ちを準備し、好評だった。また、各クラス手作りの杵と臼、小麦粉粘土等で、餅つきごっこを楽しんだ。
1月	<ul style="list-style-type: none"> 七草 凧揚げ大会 防犯教室 	<ul style="list-style-type: none"> 春の七草の由来を話し、七草粥をいただいた。 年齢に応じた手作りの凧を作って楽しんだ。 以上児クラスで、鹿児島市からの講師を招いて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統行事を知り、伝えていくことの大切さを再確認する。 よく上がる凧の教材研究を行い、寒い中でも戸外遊びを楽しんだ。 子供たちの聞く態度が立派で講師がとても驚いていた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 節分 	<ul style="list-style-type: none"> 手作りのお面や升、絵本で興味を高め、伝統行事を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を行い、鬼役を職員や子どもたちが行き、楽しい節分となった。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ひなまつり 親子遠足 卒園遠足 お別れ会 卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスでお雛様を作った。 “ふれあいスポーツランド”で親子遠足予定だったが、中止。 感染予防のために、様々な制限がある中で、卒園に向けて楽しい思い出が残せるよう、行事を工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統行事を知り、伝えていくことの大切さを再確認する。 コロナの感染防止のために、親子遠足は中止になった。 卒園遠足は市電を貸し切り、電車で市内を回った。 お別れ会は、大きい組と小さい組に分かれて実施した。 卒園式は、感染防止対策で、保護者と園児、職員のみで行った。卒園に向けて、子どもと共に取り組み、一人一人が堂々と立派な態度で証書を受け取ることができた。

7. 設備計画

(1) 人的環境

・採用

正規保育士3名（4月1日）

正規保育士2名（年度途中）

- ・産休、育休

正規保育士1名

- ・社会福祉法人内異動

事務職員1名

- ・退職

正規保育士2名、常勤保育士1名、非常勤保育士1名

※令和5年度4月採用

- ・正規保育士2名

令和4年度任用換え

- ・正規職員から常勤職員へ1名

- ・パート職員から常勤職員へ1名

(2) 物的環境

- ・パソコン購入(1台)